

官報號外

昭和二十一年七月二十四日

○帝國議會衆議院議事速記錄第十九號

昭和二十一年七月二十三日(火曜日)

午後一時二十八分開議

議事日程 第十八號

昭和二十一年七月二十三日

午後一時開議

一、衆議院議長任命に關する質問

二、憲法改正案に關する質問(田中伊三次君外四名提出)

第一、會計法戰時特例廢止等に關する法律案(政府提出)

第二、讀會の續(委員長報告)

第三、衆議院議長任命に關する質問(佐竹晴記君外四名提出)

第四、衆議院議長任命に關する質問(佐竹晴記君外四名提出)

第五、衆議院議長任命に關する質問(佐竹晴記君外四名提出)

第六、衆議院議長任命に關する質問(佐竹晴記君外四名提出)

第七、衆議院議長任命に關する質問(佐竹晴記君外四名提出)

第八、衆議院議長任命に關する質問(佐竹晴記君外四名提出)

第九、衆議院議長任命に關する質問(佐竹晴記君外四名提出)

第十、衆議院議長任命に關する質問(佐竹晴記君外四名提出)

第十一、衆議院議長任命に關する質問(佐竹晴記君外四名提出)

第十二、衆議院議長任命に關する質問(佐竹晴記君外四名提出)

第十三、衆議院議長任命に關する質問(佐竹晴記君外四名提出)

第十四、衆議院議長任命に關する質問(佐竹晴記君外四名提出)

第十五、衆議院議長任命に關する質問(佐竹晴記君外四名提出)

第十六、衆議院議長任命に關する質問(佐竹晴記君外四名提出)

第十七、衆議院議長任命に關する質問(佐竹晴記君外四名提出)

第十八、衆議院議長任命に關する質問(佐竹晴記君外四名提出)

第十九、衆議院議長任命に關する質問(佐竹晴記君外四名提出)

然るに、今回第一候補者三木武吉氏は排斥せられ、第二候補者磯貝詮三氏に對し異例の勅命があつたことは、院議の外に特に何等かの別異の事由を内奏した結果であると見るのによれば、三木氏は公職より追放され、缺格者に該當するといふので、議長選舉を辭退する旨表明するに至つたのであるといふことであるが、若しそれが事實であるならば、議會に於ても議院規則第九條により再選舉を行ふべき重大な事柄であるから、政府は正式に辭退せしめ、これを通じて、議會の再選舉を候補者三名を上奏して勅命を仰ぐべきであつた。

然るに、この三木氏の缺格並びに辭退に関する事實を伏せ、その缺點を蔽ひ、恰も正當なる第一候補者の存在するものの如く批ひつつ、他面第二候補者に對する勅任方を内奏したといふのであつたならば、政府は速かに第一候補者排除の事由を説明する責任を明確にすべきである。

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年六月二十四日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

衆議院議長任命に關する質問主意書

提出者 佐竹 晴記(外四名)

昭和二十一年七月二十三日

内閣總理大臣 吉田 茂

右成規に據り提出する質問主意書

一、昨二十二日次ノ通り特別委員ノ異動ガアツタ
會計法戰時特例廢止等に關する法律案(政府提出)委員在伊藤實雅君
○議長(邊良證三君)是ヨリ會計法開闢ノ間一及ビ二ハ、何レハ政府ヨリ審議書ヲ開
示理致シナシタ、併テ日暮ヨリ之ニ省モトキマス、一月第一、會計法戰時特例廢止等に關する法律案ノ第一讀會の續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマ
ス——委員長坂東幸太郎君

止ト會計法ノ改正トノ間ノ關係ニ付キ種々論議ガ行ハレマシタガ、其ノ中心問題ハ、戰時特別ヲ廢止スルニモ拘ラズ、會計法第二十一條ヲ其ノ儘存置スル理由如何トノ點ニ集中セラレシタ、委員側ヨリハ、敗戰後ノ我國ニ於テハ前金撫及ビ概算拂ノ制度ハ、戰時中是ガ惡用ノ爲メ生ジタル大キナ弊害ノ鑑ミ、此ノ際之ヲ廢止シタ方ガ宜イノデハナカトノ事也、見易ガ主張サレシタガ、之ニ對シマシテ政府側ヨリハ、右ハ戰後ノ金融狀態等ヨリ見テ、之ヲ殘置スルコトトシタガ、運用ニ付テハ、戰時中ト異ナリ、十分嚴重ニ規正シテ行フコトトシタイ旨ノ答辯ガアリマシタ、之ニ對シテ更ニ委員側ヨリハ、第二十一條ノ執令号簡直質疑ヲ展開、國民生活ニ深基ナル關係ヲ有スル事項ガ勤令ニ依レバ何デモ行ヒ得ルト云フコトハ、民主化ノ原則ニ反スルモノナリトノ主張ガ熱心ニ行ハレマシタ

第二二ハ、委員側ヨリ會計法戰時特例ニ付テ處理セラレタ事項ノ中、終戰時ニ於テ軍部ヨリ軍需會社等ニ對シ行ハレタ多量ノ資金ノ放出ニ付テ質疑ガ行ハレ、軍需會社等ガ不正居ル證書ニ依リ軍需補償金ノ返収資本ニ對シテハ如何ナル處分ヲ行フヤトノ質問ニ對シマシテ、右橋大蔵大臣リ十分調査ノト適當ナル處置ヲ行旨ノ答辯ガアリマシタ第三ニ、支那事變以降ノ隨時軍事費ノ總額、使用實績金及び其ノ殘金ニ付キ委員側ヨリ質問ガアリマシタガ、政府委員ヨリ、陸軍軍事費特別會計ニ付チハ、本年六月三十日ヲ以て締切り、目下決算中ナル旨ノ答辯ガゴザイマシタ

第四ニハ、終戰直後ニケル軍需物資ノ放出問題ニ付テ質疑ガアリマシタ、終戰當時不正ニ撒出セラレシタが如ニ付、聯合軍團ノ總額、金額並ニ既ニ行ハレマシタ責任者ノ處置ノ程度及ビ今後ノ處置ノ方針等ニ付キマシテ委員側ヨリ質疑スル所ガアリマシタ、更ニ又日本軍法ニ依リ處斷セラルベキ犯罪ニ付テ、聯合軍團ノ手ヲ煩へハスルシ可當當局、陸海軍團ノ如ク司法當局ニ於テ處理ガ行ハシマシタガ、其ノ中心問題ハ、戰時特別ヲ廢止スルニモ拘ラズ、會計法第二十一條ヲ其ノ儘存置スル理由如何トノ點ニ集中セラレシタ、委員側ヨリハ、敗戰後ノ我國ニ於テハ前金撫及ビ概算拂ノ制度ハ、戰時中是ガ惡用ノ爲メ生ジタル大キナ弊害ノ鑑ミ、此ノ際之ヲ廢止シタ方ガ宜イノデハナカトノ事也、見易ガ主張サレシタガ、之ニ對シマシテ政府側ヨリハ、右ハ戰後ノ金融狀態等ヨリ見テ、之ヲ殘置スルコトトシタガ、運用ニ付テハ、戰時中ト異ナリ、十分嚴重ニ規正シテ行フコトトシタイ旨ノ答辯ガアリマシタ、之ニ對シテ更ニ委員側ヨリハ、第二十一條ノ執令号簡直質疑ヲ展開、國民生活ニ深基ナル關係ヲ有スル事項ガ勤令ニ依レバ何デモ行ヒ得ルト云フコトハ、民主化ノ原則ニ反スルモノナリトノ主張ガ熱心ニ行ハレマシタ

第二二ハ、委員側ヨリ會計法戰時特例ニ付テ處理セラレタ事項ノ中、終戰時ニ於テ軍部ヨリ軍需會社等ニ對シ行ハレタ多量ノ資金ノ放出ニ付テ質疑ガ行ハレ、軍需會社等ガ不正居ル證書ニ依リ軍需補償金ノ返収資本ニ對シテハ如何ナル處分ヲ行フヤトノ質問ニ對シマシテ、右橋大蔵大臣リ十分調査ノト適當ナル處置ヲ行旨ノ答辯ガアリマシタ第三ニ、支那事變以降ノ隨時軍事費の總額、使用實績金及び其ノ殘金ニ付キ委員側ヨリ質問ガアリマシタガ、政府委員ヨリ、陸軍軍事費特別會計ニ付チハ、本年六月三十日ヲ以て締切り、目下決算中ナル旨ノ答辯ガゴザイマシタ

第四ニハ、終戰直後ニケル軍需物資ノ放出問題ニ付テ質疑ガアリマシタ、終戰當時不正ニ撒出セラレシタが如ニ付、聯合軍團ノ總額、金額並ニ既ニ行ハレマシタ責任者ノ處置ノ程度及ビ今後ノ處置ノ方針等ニ付キマシテ委員側ヨリ質疑スル所ガアリマシタ、更ニ又日本軍法ニ依リ處斷セラルベキ犯罪ニ付テ、聯合軍團ノ手ヲ煩へハスルシ可當當局、陸海軍團ノ如ク司法當局ニ於テ處理ガ行ハシマシタガ、其ノ中心問題ハ、戰時特別ヲ廢止スルニモ拘ラズ、會計法第二十一條ヲ其ノ儘存置スル理由如何トノ點ニ集中セラレシタ、委員側ヨリハ、敗戰後ノ我國ニ於テハ前金撫及ビ概算拂ノ制度ハ、戰時中是ガ惡用ノ爲メ生ジタル大キナ弊害ノ鑑ミ、此ノ際之ヲ廢止シタ方ガ宜イノデハナカトノ事也、見易ガ主張サレシタガ、之ニ對シテ更ニ委員側ヨリハ、右ハ戰後ノ金融狀態等ヨリ見テ、之ヲ殘置スルコトトシタガ、運用ニ付テハ、戰時中ト異ナリ、十分嚴重ニ規正シテ行フコトトシタイ旨ノ答辯ガアリマシタ、之ニ對シテ更ニ委員側ヨリハ、第二十一條ノ執令号簡直質疑ヲ展開、國民生活ニ深基ナル關係ヲ有スル事項ガ勤令ニ依レバ何デモ行ヒ得ルト云フコトハ、民主化ノ原則ニ反スルモノナリトノ主張ガ熱心ニ行ハレマシタ

ニ見地ヨリ、寧ロ特別裁判ニ付スベキモノナリトノ主張ガ行ハレシタ、之ニ對シマシテ政府側ヨリハ、司法當局トシテハ各地ニ指令シテ検舉ニ努メツク千六百九十五名ノ多數ニ上り、其ノ大部分ハ軍人、軍屬、工員等デアルガ、御説ノ通り懲罰ヲ以テ臨シテ居ル旨ノ答辯ガゴザイマシタ

第五ニハ、軍用地ノ拂下問題ニ付テ種々質疑ガ行ハレマシタ、委員側ヨリハ、軍用地ハ極力速力ニ舊所有者ニ拂下ヲ行フベキモナリトノ主張ガ行ハレマシタ、之ニ對シテ政府側ヨリハ、ノ處分ハ縣合議ノ許可ヲ要シマスルガ、差支ナリ限リ御要望ノ通り舊所有者ニ優先的ニ貸付又ハ拂下ヲ行ヒタイ旨ノ答辯ガアリマシタガ、尙ホ其ノ際有者ニ返スガ、ノリノ土地ニ對シテヨリ營園等大農場のニヤル場合ガアルカカラ、其ノ時分ニハ舊所有者ニ渡スコトガ出來ナイカモ知レスト云フヤウナ答辯ガゴザイマシタ、是ハ御参考ニ申シテ置キマス

第六ニハ、委員側カラ啟戦後ノ神社及寺院ノ有財産ハ國防等ニ付キ質問ガゴザイマシタ、又國防等ニ付キ質問並ニ今後ノ取扱ニ付テ質疑ガゴザイマシタ、ソレハ政府側ヨリ答辯ガゴザイマジタ

第七ニハ、戰爭保險金ハ如何ニ處理セラレルガ、又軍需補償ハ如何ニナルガ、或ハ封鎖筋金ハ無効ニスルノカ、或ハ貿易貨物ハ國民所得ノ何割ヲ適當トスルカ、或ハ國債ハ如何ニ處理セラレル財政經濟全體ニ關聯スル根本問題ニ付テ質疑ガ展開セラレシタガ、之ニ對シテハ右橋大臣カラ、戰爭保險ノ處理ニ付テハ未だ次定シテ居ナイガ、何レシテモ小額ノモノニ對シテハ迷惑ナリ掛ケヌ積リアル、又軍需補償ニ付テハ、日本經濟ニ付テハ、日本經濟ニ付テトシノ如キ封鎖預金ヲ無効ニスルト云フアキモナリ、其ノ事態ノ大半は、正確アル數字ヲ明確ニ呈ツア來ルノデ、正確アル數字ヲ明

示スルコトハ困難アルト申サレマシタ、又國債ノ元利ヲ破棄ルト云フコト
ハ出来ナイ旨ノ答辯ガゴザイミシタ
而シテ第八ニハ、經濟安定本部ハ内
閣ト如何ナル關係アリヤトノ質問ニ對
シマシテ、大藏ノ大蔵ハ答ヘテ曰ク、隨て内閣
ハ單立諸機關關防ハナマシテ、内閣
ガ迭ツチモ安室本部ノ政策ハ變ラナイ
ガ、併シ内閣ニ對シテ君臨スルヤウナ
コトハ絶対ニナイ、斯ウ云フコトヲ明
瞭ニ答辯サレマシタ
又第七九、國防廳金額ノ質問ガアリ
シタガモ、濱田重臣自願第一來陸軍ダケノ
シタガモ、支那事變以來陸軍ダケノ
國防廳金額ハ十一億五千餘萬圓、預
金ノ利子が四千四百餘萬圓、合計十一
億九千九百餘萬圓、其ノ中デ使用シタ
ルモノガ六億六千五百餘萬圓、殘りノ
五億三千五百餘萬圓、其ノ内譯ハ省キ
シタト云フ答辯ガゴザイシタ、而シ
テ海軍ノ方ノ關係アリ、ハ山本復員廳
第二總理局長ノ答ヘテアリマスガ、滿
洲事變以來ノ國防廳金總額ハ、預金利
子ヲ合セテ約十億圓、其ノ内譯ハ省キ
シタト云フ答辯ガゴザイシタ
マスガ、支那總額ハ七億九千六百萬圓
デ、殘額二億三千三百萬圓ハ大藏省ニ
移管ドナツテ居ルト云フ說明ガゴザイ
マシタ、以上ノ外ノブレーチン
問題ハ、車需物資放出問題等ニ付チソ
レノ、質疑ガゴザイシタ
以上ノ如ク各般ノ問題ニ瓦リ展開セ
ラレタ質疑モ概モ盡サレタノデ、七月
十八日ヲ以テ質疑ヲ打切り、同月二十
日、第一委員會ノ於テ討論ニ入りマシタ
ガ、第一回自由黨・青木孝壽議、政府ノ
リ、本案ニ對スル質疑ニ及ス、政府ノ
答辯モ大體了解シタ、唯政府ニ於テハ
會計法第二十一條ノ運營三付キ注意セ
ラレタ旨付言シテ本案ニ對スル質疑
ヲ表シマシタ次イデ淮歩萬ノ北村德太
郎君、又協同民主黨ノ松本龍三君並ニ
新光俱樂部ノ伊藤實雄君、ソレカラ
本案ニ質成ノ討論ガ行ハレマシテ、採
決ノ結果、満場一致ヲ以テ原案通り可
決確定致シマシク、以上御報告申上ゲ
マス(拍手)
○ 譜壇(種昌監三君) 本案ノ 第二審會
ヲ開クニ御譲讓アリマセスカ
○ 議長(種昌監三君) 御詫義ナント恩
タ、又國債ノ元利ヲ破棄ルト云フコト
ハ出來ナイ旨ノ答辯ガゴザイミシタ
而シテ第八ニハ、經濟安定本部ハ内
閣ト如何ナル關係アリヤトノ質問ニ對
シマシテ、大蔵ノ大蔵ハ答ヘテ曰ク、隨て内閣
ハ單立諸機關關防ハナマシテ、内閣
ガ迭ツチモ安室本部ノ政策ハ變ラナイ
ガ、併シ内閣ニ對シテ君臨スルヤウナ
コトハ絶対ニナイ、斯ウ云フコトヲ明
瞭ニ答辯サレマシタ
又第七九、國防廳金額ノ質問ガアリ
シタガモ、濱田重臣自願第一來陸軍ダケノ
シタガモ、支那事變以來陸軍ダケノ
國防廳金額ハ十一億五千餘萬圓、預
金ノ利子が四千四百餘萬圓、合計十一
億九千九百餘萬圓、其ノ中デ使用シタ
ルモノガ六億六千五百餘萬圓、殘りノ
五億三千五百餘萬圓、其ノ内譯ハ省キ
シタト云フ答辯ガゴザイシタ、而シ
テ海軍ノ方ノ關係アリ、ハ山本復員廳
第二總理局長ノ答ヘテアリマスガ、滿
洲事變以来ノ國防廳金總額ハ、預金利
子ヲ合セテ約十億圓、其ノ内譯ハ省キ
シタト云フ答辯ガゴザイシタ
マスガ、支那總額ハ七億九千六百萬圓
デ、殘額二億三千三百萬圓ハ大藏省ニ
移管ドナツテ居ルト云フ說明ガゴザイ
マシタ、以上ノ外ノブレーチン
問題ハ、車需物資放出問題等ニ付チソ
レノ、質疑ガゴザイシタ
以上ノ如ク各般ノ問題ニ瓦リ展開セ
ラレタ質疑モ概モ盡サレタノデ、七月
十八日ヲ以テ質疑ヲ打切り、同月二十
日、第一委員會ノ於テ討論ニ入りマシタ
ガ、第一回自由黨・青木孝壽議、政府ノ
リ、本案ニ對スル質疑ニ及ス、政府ノ
答辯モ大體了解シタ、唯政府ニ於テハ
會計法第二十一條ノ運營三付キ注意セ
ラレタ旨付言シテ本案ニ對スル質疑
ヲ表シマシタ次イデ淮歩萬ノ北村德太
郎君、又協同民主黨ノ松本龍三君並ニ
新光俱樂部ノ伊藤實雄君、ソレカラ
本案ニ質成ノ討論ガ行ハレマシテ、採
決ノ結果、満場一致ヲ以テ原案通り可
決確定致シマシク、以上御報告申上ゲ
マス(拍手)

○山口喜久一郎君
○山口喜久一郎君直チニ本案ノ第二
○讀會ヲ閉キ 第三讀會ヲ省略シテ委員
長報告通り可決セラレシ事ヲ望ミマス
○議長(樋貝謙三君) 山口君ノ動議ニ
御異議アリマセヌカ
○議長(樋貝謙三君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ
開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

○讀長(樋貝謙三君) 御異議ナシト認
リマセヌ、第三讀會ヲ別ニ御審議シテ委員
報告通り可決確定致シマシタ(拍手)
○山口喜久一郎君 議事日程追加ノ緊
急動議ヲ提出致シマズ、即チ此ノ際大
野伴睦君一外名提出、國內治安維持に
關する緊急質問ヲ許可セラレントヲ
望ミマス

○議長(樋貝謙三君) 山口君ノ動議ニ
御異議アリマセヌカ
〔「異議ナシ」と呼ブ者アリ〕
○議長(樋貝謙三君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ日程ハ追加セラレマシ
タ——國內治安維持に關する緊急質問
ヲ許可致シマス——提出者大野伴睦君
國内治安維持に關する緊急質問(大
野伴睦君外二名提出)

○大野伴睦君(登壇)
問題ニ付テ政府ノ所信ヲ質シタイト思
フノアリマス

○大野伴睦君諸君、私ハ治安維持ノ
本士進駐以來、平和的且ツ友好的デ、日本
國民ノ齊シク感激シテ居ル所デアリ
マス(拍手)爾來日本人トシテハ、終戦
後諸般ノ秩序ヲ速カニ回復ヲ致シ、一
日モ早ク平和國家ヲ建設シ、聯合國側
ノ好意アル指導ト協力ニ對シ心カラ酬
トシテ、幾多ノ困難ヲ排除シ、今日マデ
イネバナラスト云フコトハ、總テノ日
本人ノ心密カニ期スル所デアリマス
(拍手)

界各國、特ニ隣邦ノ協力ニ俟タナケレバ實現不可能ノ状態アリマス(拍手)聞ク所ニ依レバ、中華民國蔣主席席ハ日華親善ノ爲メ、日本再建ノ爲メ格段ノ好意ヲ示サレテ居ルト云彼コトニテアリス、我々サレテ居ルニ對シ翁感謝ノ意アラナイト存ズルモノニアリマス、然ル表示スルダケデハナク、其ノ協力ヲ受入レ、進シテ一日モ早ク其ノ實現ヲ圖リ、以テ平和日本ノ再建ト共ニ、世界平和ノ招來ニ貢獻スル所ガナケレバナラナイト存ズルモノニアリマス、然ル表スルダケデハナク、其ノ協力ヲ受入レ、我々ノ此ノ努力ニ對シ、進シテ協力ヲ與ヘ得ベキダシ人々ノ中ニ、度チ之ヲ與得シキハ、甚ダシキヤ我々ノ營にて居スル社會秩序ヲ根本ヨリ破壊ニ道カントスル狀況ニ立至ツテ居ルノニアリマス(拍手)我々ハ世界各國環視ノ下、能ク隠忍自重今日ニハシテ居ルノアリマス、併シモノニハ限度アリマス、豈強盜ガ現ハレ、而モフレガ次ニ集團の行動トナリ、悪質化シテ來テ居ルソシテ成ルノニアリマス(拍手)特ニ敗戦下ノデアリマス、故ニ同胞ハ甚ダシソシカ居ル現下ノ状況デアリマス(拍手)公益ヲ阻礙スル闇市場ノ出現、列車内ノ暴行、無切符乗車、税制ヲ素ス無税ノ營業、無許可ノ開店、金融界ノ統制破壊、暴力脅迫等、我々ガ済ムトシテ此ノ居留地アリマス(拍手)又ノ一都ニ小都市ヘドリレ入リ、次ニ村落ニ委ヲ現ハスニテ、ツタノデアリマス、此ノ傾向ハ善良ナル民衆ノ心ニマデ食ヒ入り不善ヲナチテ現ス者次第ニ増加ノ一途アリテ、アル現思フアリマス、此ノ悲シムベキ社會秩序ノ破壊ハ、日本人ニアラザル者ガ主流タルコトデアリマス(拍手)思フニ誤レル世界觀ノ罪ノ體ヒト敗戦者ヘノ責ハ、今更ナガラ覺悟ハ決メテ居ルトハ云ヘ、非日本本人ガ社會秩序ノ壞行ハ云ヘ、恰モ本人ナル社會秩序ノ壞入セル感ヲ禁ジ難キモガアルノアリマス(拍手)殊ニ最近帝都ノ濫死、新橋附近ニ於テ起ツタ騒擾事件ハ、闇市場ヲ中心トシ、日本人商人ト日本人ニアラザル商人トノ衝突デアリマスル

一體之ニ對シ自主的ニ機宜ノ處置ヲ講
ジタノデアリマセウカ、是ハ獨リ
國帝ニヨミ起シツカ現象デハナク、全
現象デアリマス、我々ハ此ノ際
是非直モ明カニシ、以テ對策ヲ講ズ
ベキ秋ニアリマス、我々ハ此ノ際
坐シテ此ノ現狀ヲ見送ルカ、然
ラザレバ進シテ是ガ秩序ヲ自ラ
ノ手ニ依ツテ維持回復スルカ、速カニ
ノトシテ泊ニ遺憾ナル狀態デアリマス
（拍手）特高警察ノ廢止、政治思想、言
論ニ對スル権利の保障、解消ニ依ツ
來、我ガ憲法、監視、曾ニ封建時代以
テ、國內警安ノ重大ナル責責ニ任ズルモ
ノトシテ泊ニ結構デアリマスルガ、警察ノ民主
化ト云フコトハ、決シテ警察ノ無力化
デハナイト信ズルノデアリマス（拍
手）殊ニ惡質ノ闇行爲ト云フ現下國民
黑ニ警察ガモトヨ拂シタルコトハ
泊ニ結構デアリマスルガ、警察ノ民主
化ト云フコトハ、斷然シテ擁護スル態度ニス
ナケレバ、斷然シテ擁護スル態度ニス
ルコトハ出來ナインデアリマス（拍
手）言フマデモナキコトデアリマスル
ガ、抑ニ社會秩序ヲ棄ス、即チ公序良
俗ニ反スル行爲ハ、何人タリトモ世界各國ノ
人類ノ敵トシテ嚴重ニ、時、所、人ノ
別ナク取締リ處斷スベキコトハ文明人
ノ常識デアリマス（拍手）
故ニ日本政府トシテハ、世界各國人ノ
命財産ヲ保護スル立場上、斷乎確極
ニ取締方針ヲ確立スベキデアリマス（拍
手）第次アリマス、殊ニ「マッカ
サー」司令部人道主義、平和主義
理念ヲ以テスレバ、必ズヤ日本政府ノ
社會秩序維持ノ爲ニ積極行動ニ對シテ
ハ、理解ト同情ト援助ヲ與ヘラル、コ
トヲ確信シテ宜ヒトビマス（拍手）
我々ハ此ノ際正義ト人道ヲ基礎ニ
平和ヲ確立シテ道義ニ貫ヘ
ラレタル和平國家建設ノ重大使命ガ果
セルト思フノデアリマス、平和國家建
設ノ世界ノ水準ニ達スルマデニハ、尙
ホ幾多ノ困難ガ伴フコトデアリマセ
ウ、テ賃徵セキセバヌラノデアリマ
ス、此ノ意氣ト努力コトマシカ
セ「元帥ニ掛ケル感謝ノ誠デアリマ
ス（拍手）此ノ際政府ハ大層ダ遠觀シ

終りニ論ミマシテ一言申上ダライコトハ、醉夜ノ別ナク社會秩序維持ノ爲メ身替サレ居ルマツカガルナリ。司令部ノ警官諸士ニ對シ、深甚ナル敬意コ感謝ノ意ヲ表シタリ。思ヒマス(拍手)次ニ又日本ノ治安ノ任ニアル警察當局並ニ警察官ニ對シ、感謝ノ意ヲ表シタイト存ジマス、尙又治安ノ第一線ニ立ツテ負傷等ヲサレタル諸士ニ對シ、心カラ感謝ト慰安ノ言葉ヲ捧ゲタリ。存心シマス(拍手)又政府ノ所長ヲ是ノ如ク諸士ニ對シ特別ノ考慮ヲ拂ハレルヤウ要望シテ已ミマセラ、以上ヲ以テ私ノ所論ヲ終ルコトニ致シマスルガ、此ノ際政府ノ所信ヲ開陳サレンコトヲミマス、終リ(拍手)

○國務大臣大村清一君登壇

終戦ト同時ニ、民心ハ一時沈みベキ目標ヲ見失ヒマシタ結果、所謂貪曉狀態ニ陥リ、一方自省心ヲ失ヒマシタ徒スト御激動ヲ戴キマシテ感謝ニ堪ヘマセヌ、日夜黙々トシテ任務ニ挺身致シテ居リマス全警察官ニ代リマシテ厚ク御禮禱ヲ申上ダマスト同時ニ、此ノ際國內外安寧スル所為ノ決意ヲ披瀝致シタリ。

○國務大臣大村清一君登壇

官三對シマシテ憲篤ナル御慰勞ノ言葉

ト御激励ヲ戴キマシテ感謝ニ堪ヘマセヌ、日夜黙々トシテ任務ニ挺身致シテ行爲ニ出で、社會不安ヲ醸成致シタノ居リマス、而モ之ニ加ヘテ、所謂解放サレタリ在留者ニシテ誤レル者ハ、過去ノ處遇ニ對スル抱擁ヲ理由ト致シテ、敗戦國ノ法律ニ遵フ必要ハナイト、恰モ戰勝國民ナルガ如キ懼越感ヲ抱キ、例へば不當要求、集團暴行、各種犯罪ノ敢行、經濟統制濫用、無實車等ノ不法驅軋、行爲ヲモラツ特等行為人心ヲ不安ニ陥レシメントニ御承知ノ通リアリマス、數日前ニ於キマシテ、露店市場ヘ不當進出ヲ原因ト致シマシテ、臺灣省民ト我ガ國人トノ間ニ紛争ヲ生ジ、ソレガ遂ニ警備署襲撃事件ニ付ト存ジマス、等ニコトモ御承知ノ通リアリマス、一般國民ノ生命、身體、財產ヲ護ル任務ヲ有スル警察官ハ、凡ニル困難ナ條件下ニ、言ヒ知レヌ苦心ヲ拂ツテ是ガ取締ヲ致シテ居ル次第アリマス、

○議長(樋口謹三君) 是ニテ議事日程ハ
アリマス(拍手)
ハ終了致シマシタ、次會ノ議事日程ハ
公報ヲ以テ通知致シマス、本日ハ是ニ
テ散會致シマス
午後三時一分散會